

## 792. 解析算法 = 就イテ, I

近藤 基吉 (北大)

F. Hausdorff, W. Sierpiński, L. Kantorowitch, E. Livensou 等 = ヨツテ + オレタ 解析算法 / 研究ハ未知極ク初期ノ状態デ注目スベキ結果ガ出テ居+イガ.

今後記述的集合論ヲ重要ナル位置ヲ白メルニ至ルト思フ。  
 私ハ射影集合ヲ研究スル準備トシテコノ頃コノ方面ノ問題  
 ヲ考ヘテ見タカラ今コデニ得ラレタ結果ヲ此処デ書キテ見タ  
 イト思フ。

此ノ算法ノ研究ハ從來集合ノ場合ノミガ考察サレテ居タ  
 ノデアルガ、コノ場合ヨリモ函数ノ場合ヲ先ニ考察スルノガ  
 研究ノ順序デアルト思フノデ此処デハソノ方法ニヨリタイ。  
 我々ハ先ヅ研究ノ目標ヲオカサケレバナラナイガ、最初ノ目  
 標ヲ Baire ノ函数ニ関スル H. Lebesgue 氏ノ理論ノ  
 解析算法ヘノ拡張ニオキタイト思フ。

**1. 解析算法ノ定義**  $R$ ヲ空間トスル、 $R$ デ定  
 義サレタ一價實函数ノ列  $\{F_n(x)\}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) カラ  $R$   
 デ定義サレタ一價實函数ヲ構成スル算法至  $(F_n(x))$  ノ中デ  
 $R$ ノ各点  $x_0$ ニ於イテ至  $(F_n(x))$ ノ與ヘル値至  $(F_n(x_0))$   
 $x_0$ ガ  $F_n(x)$ ガ  $F_n(x)$ ノ点  $x_0$ ニ於ケル値  $F_n(x_0)$   
 ノミデ決定サレルモノヲ ( $R$ デ定義サレタ) 解析算法ト云  
 フ。

コノ場合算法至  $(F_n(x))$ ハ点  $x_0$ ニ於イテ實數列  
 $\{F_n(x_0)\}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) カラ實數至  $(F_n(x); x_0)$ ヲ  
 構成スル實數ニ関スル算法ト考ヘラレル。従ツテ点  $x_0$ ニ對  
 シテ實數列  $\{y_n\}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) カラ實數至  $x_0$  ( $y_n$ )ヲ構成  
 スル算法ヲ適當ニ選ンデ

$$\text{至}(F_n(x); x_0) = \text{至}_{x_0}(F_n(x_0))$$

ガ成立スルヤウニ出来ル。今後記号ヲ尙軍ニシテ至  $(F_n(x);$

$x_0$ ) を  $\Phi(F_n(x_0))$  で示スコト = スル。此処で  $\Phi_x(y_n)$   
 ノコトヲ  $\Phi(F_n(x))$  ノ点  $x =$  於ケル局所算法ト云フ。解析  
 算法が映ヘラレルトキ = ハソノ局所算法ハ一義的 = 決定セラ  
 レ、逆 =  $R$  ノ各点  $x =$  実数 = 閉スル算法  $\Phi_x(y_n)$  ヲ任  
 意 = 映ヘルトキ = 是ヲ局所算法トスル解析算法が一義的 = 決  
 定サレル。

此処でニツノ場合が考ヘラレル。其ノ一ツハ  $\Phi(F_n(x))$   
 ノ局所算法  $\Phi_x(y_n)$  が  $R$  ノ各点  $x =$  閉係シトイ場合デアリ、  
 他ノ一ツハサウデナイ場合デアル。前ノ場合局所算法  $\Phi_n(y_n)$   
 ヲ簡單 =  $\Phi(y_n)$  デ示シ、 $\Phi(F_n(x))$  ハ *homogène* デ  
 アルト云フ。

注意。コノ定義ハ  $L. Kantorowitch, E. Liviu-$   
 $son$  両氏ノ集合 = 閉スル解析算法ノ定義ヲ函数ノ場合 = 移  
 行シタモノデアル。但シ我々ノ解析算法ノ両氏、*quasi-*  
*analytic operation* = 相當シ、*homogène* + 解析  
 算法ハ *analytic operation* = 相當シテ居ル。

## 2. 局所算法ノ構造 此処で先ヅ問題トナルコ

トハ解析算法ノ構造デアル。シカルニ解析算法ハ其ノ局  
 所算法 = ヨツテ一義的 = 決定セラレ、局所算法ハ実数 =  
 閉スル算法デアルカラ、此ノ算法ノ構造ヲ研究スレバ我  
 々ノ目的ハ達セラレル。実数 = 閉スル算法ハ無限個ノ独  
 立変数ヲ有スル函数デアルカラ、コレヲ函数トシテ取扱  
 フコト = シヨウ。其処で是 = 連続ノ概念ヲ導入スル。  
 其ノ  $X =$  実数列ノ空間  $R$  ヲ考ヘル。  $R$  ノ数列ノ閉

= 距離ノ概念ヲ次ノヤリニ定義スル。即チ  $R$  ノニツノ数列  $\{x_n^{(k)}\}$  ( $k=1, 2; n=1, 2, \dots$ ) = 對シテ

$$\text{dis}(\{x_n^{(1)}\}, \{x_n^{(2)}\}) = b_n \cdot \Delta \cdot \nu(x_n^{(1)}, x_n^{(2)})$$

トスル。但シ

$$\nu(x, y) = |\nu(x) - \nu(y)|;$$

$$\nu(x) = \frac{x}{1+|x|} \quad (x \neq \pm\infty), \quad \nu(\pm\infty) = \pm 1$$

デアル。シカルトキ =  $R$  ハ完備距離空間デアアル。シカシ可分デアハナイ。今実数ニ関スル算法  $\Phi(y_n)$  ノ定義域ヲ  $D (C R)$  トスル。  $\Phi(y_n)$  ガ  $D$  ノ数列  $\{y_n^{(0)}\}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) ガ連続デアルト云フノハ  $\varepsilon > 0$  = 對シテ  $\delta > 0$  ヲ選ンテ

$$\text{dis}(\{y_n^{(0)}\}, (y_y)) < \delta, \quad \{y_n\} \in D$$

ノトキ =  $\nu(\Phi(y_n^{(0)}), \Phi(y_y)) < \varepsilon$  トナシ得ルコトデアアル。  $\Phi(y_n)$  ガ  $D$  ノ凡テノ数列ガ連続デアルトキ =  $\Phi(y_n)$  ハ連続デアルト云フ。

実数ニ関スル連続ナル算法ノ中デ特ニ重要ト思ハレヌモノハ *opération arithmétique* ト *opération topologique* デアル。此処デ *opération arithmétique* ト云フノハ次ノ六種類ノ算法

- 1°.  $a+x$ ,    2°.  $ax$ ,    3°.  $x_1+x_2$ ,    4°.  $x_1-x_2$ ,  
5°.  $x_1 \times x_2$ ,    6°.  $x_1 \div x_2$  (但シ  $a \neq 0$  倍数)

デアアル。次 = *opération topologique* ノ定義ヲ與ヘテ置カウ。  $R$  デ連続ナル算法  $\Phi(y_n)$  ガ條件「任意ノ單調増加連続函数  $x(t)$  ( $-\infty \leq t \leq +\infty$ ) = 對シテ

$$\chi(\overline{(y_n)}) = \overline{(\chi(y_n))}$$

が常ニ成立スル』ヲ満足スルトキニ *topologique* デアル

ト云フ。 *opération topologique* ノ例トシテ

b. s.  $y_n$ ; b. i.  $y_n$ ;  $\lim_{n \rightarrow \infty} y_n$ ;  $\lim_{n \rightarrow \infty} y_n$  等ヲ上ゲルコト

ガ出来ル。

此処デ *opération topologique* ノ構造ヲ考ヘテ  
置キタイ。其ノタメニ先ヅ定義ヲ與ヘル。

定義:  $\mathcal{R}$  ノ  $0$  ト  $1$  トノ間ニアル無理數カラナル空ナ  
イ集合トスルトキニ

$$\overline{(y_n)} = \text{b. s. } \left\{ \text{b. i. } y_{n_k} \right\}_{(n_1, n_2, \dots) \in \mathcal{R}}$$

ヲ實數ニ關スル Hausdorff ノ算法。  $\mathcal{R}$  ノ其ノ底ト云  
フ。

注意。コノ定義ハ集合ニ關スル Hausdorff ノ算法ヲ  
實數ノ場合ニ移行シタメノデアアル。

定理 I.  $\mathcal{R}$  デ定義カレタ實數ニ關スル算法  $\overline{(y_n)}$   
ガ *topologique* デアルガタメニ必要且ツ十分ナル條  
件ハ  $\overline{(y_n)}$  ガ實數ニ關スル Hausdorff ノ算法デアル  
事デアアル。

証明: 十分條件ナルコト。  $\overline{(y_n)}$  ノ實數ニ關スル  
Hausdorff ノ算法。  $\mathcal{R}$  ノソノ底トスル。

今單調増加連続函数  $\chi(t)$  ( $-\infty \leq t \leq +\infty$ ) ノ與ヘ  
テ  $\overline{(\chi(y_n))}$  ノ考ヘル。

然ルトキニハ

$$\begin{aligned} \Phi(\chi(y_n)) &= \text{b. d. } \left\{ \text{b. i. } \chi(y_{n_k}) \right\} = \text{b. d. } \chi(\text{b. i. } y_{n_k}) \\ &= \chi(\text{b. d. } (\text{b. i. } y_{n_k})) = \chi(\Phi(y_n)) \end{aligned}$$

である。他方面で実数列  $\{y_n^{(0)}\}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) と  $\varepsilon > 0$  と  $\exists$   
 巽へて  $\text{dis}(\langle y_n^{(0)}, y_n \rangle) < \varepsilon$  成立スル実数列  $\{y_n\}$   
 ( $n=1, 2, \dots$ ) を考へル。  $\nu(y_n^{(0)}, y_n) < \varepsilon$  ( $n=1, 2, \dots$ )  
 であるから  $\nu(y_n^{(0)}) < \nu(y_n) + \varepsilon$  ( $n=1, 2, \dots$ ) である。  
 故に  $\Phi(\nu(y_n^{(0)})) \leq \Phi(\nu(y_n) + \varepsilon)$  である。然るに  $\nu = \nu(t)$ 、  
 $\nu(t) + \varepsilon$  は共に単調増加連続であるから今証明シタ結果に  
 依つて  $\nu(\Phi(y_n^{(0)})) \leq \nu(\Phi(y_n)) + \varepsilon$ 。同様にして  $\nu(\Phi(y_n^{(0)})) \leq \nu(\Phi(y_n^{(0)})) + \varepsilon$   
 が得られ  $\nu(\Phi(y_n^{(0)}), \Phi(y_n)) \leq \varepsilon$  である。故に  $\Phi(y_n)$  は連続に従つて *topologique* である。

必要條件ナルコト。  $\Phi(y_n)$  を *opération topologique* とスル。無理数  $(n_1, n_2, \dots)$  を條件『実数列  $\{y_n^{(0)}\}$   
 ( $n=1, 2, \dots$ ) と実数  $\mu$  と  $\exists$  適當ニ選シて  $\Phi(y_n^{(0)}) > \mu$ 、  
 $y_{n_k}^{(0)} > \mu$  ( $k=1, 2, \dots$ ) 及び  $y_n^{(0)} \leq \mu$  ( $n \neq n_k$ ) とシ  
 得ル』ヲ満足スル  $\mu \in \mathbb{R}$  ノ集合ヲ  $\mathcal{R}$  とスル。然るに  $\mu = 0$  である。  
 何とすれば、 $y_n^{(0)} = 0$  ( $n=1, 2, \dots$ )、 $\chi(t) = 2t$  とすれば  
 $\chi(\Phi(y_n^{(0)})) = \Phi(\chi(y_n^{(0)}))$ 、或は  $2\Phi(y_n^{(0)}) = \Phi(y_n^{(0)})$   
 が成立シ  $\Phi(y_n^{(0)}) = 0$  である。故に  $y_n^{(0)} > -1$  ( $n=1, 2, \dots$ )、  
 $\Phi(y_n^{(0)}) > -1$  が成立シて  $(1, 2, 3, \dots) \in \mathcal{R}$  である。即ち  $\mathcal{R} \neq \emptyset$  である。

其他で実数 = 閉スル算法  $\Phi(y_n)$  を次、ヤウニ定義スル。

即ち、実数列  $\{y_n\} (n=1, 2, \dots) =$  對シテ  $y_{n_k} > \epsilon (k=1, 2, \dots)$ ,  $y_n \leq \epsilon (n \neq n_k) (n_1, n_2, \dots) \in \mathcal{N}$ , 成立スル実数  $\epsilon$ , 存在シトキ  $= \wedge \underline{\Psi}(y_n) = -\infty$ , 然ラザルトキ  $= \wedge$

$$(1) \quad \underline{\Psi}(y_n) = \text{v.l.} \left\{ y_{n_k} > \epsilon (k=1, 2, \dots), y_n \leq \epsilon (n \neq n_k), (n_1, n_2, \dots) \in \mathcal{N} \right\}$$

トスル。然ルトキ  $= \wedge$  重  $(y_n) \equiv \underline{\Psi}(y_n)$  が成立スル。之レヲ証明スルタメニ先ツ  $\underline{\Psi}(y_n) \geq \underline{\Psi}(y_n)$  ヲ証明スル。

実数列  $\{y_n^{(0)}\} (n=1, 2, \dots) =$  對シテ  $\underline{\Psi}(y_n^{(0)}) = -\infty$  ノ時  $= \wedge$  明カニ  $\underline{\Psi}(y_n^{(0)}) \geq \underline{\Psi}(y_n^{(0)})$  が成立スル。次ニ  $\underline{\Psi}(y_n^{(0)}) > -\infty$  ノトキヲ考ヘル。コノ場合  $= \wedge \underline{\Psi}(y_n)$  ノ (1) ノ定義サレテ居ル。其処ニ  $y_{n_k}^{(0)} > \epsilon$ ,  $y_n^{(0)} \leq \epsilon (n \neq n_k)$ ,  $(n_1, n_2, \dots) \in \mathcal{N}$  ノ成立スル任意ノ実数  $\epsilon$  ヲ取ル。  $\mathcal{N}$  ノ定義  $= \exists \gamma$  テ実数列  $\{z_n^{(0)}\} (n=1, 2, \dots)$  ト実数  $\delta$  トヲ選ンテ  $z_{n_k}^{(0)} > \delta (k=1, 2, \dots)$ ,  $z_n^{(0)} \leq \delta (n \neq n_k)$ ,  $\underline{\Psi}(z_n^{(0)}) > \delta$  ノ成立スル様ニ出來ル。一般性ヲ失ハズニ  $\delta = \epsilon$  ト假定スルコトが出來ル。何ントナレバ、定義ニ依ツテ実数列  $\{z_n^{(0)} + (\epsilon - \delta)\} (n=1, 2, \dots) =$  對シテ  $z_{n_k}^{(0)} + (\epsilon - \delta) > \epsilon (k=1, 2, \dots)$ ,  $z_n^{(0)} + (\epsilon - \delta) \leq \epsilon (n \neq n_k)$ ,  $\underline{\Psi}(z_n^{(0)} + (\epsilon - \delta)) = \underline{\Psi}(z_n^{(0)}) + (\epsilon - \delta) > \epsilon$  が成立スルカラデアル。

其処ニ数列

$$z_n^{(1)} = y_n^{(0)} (n \neq n_k) \quad z_{n_k}^{(1)} = z_{n_k}^{(0)} (k=1, 2, \dots)$$

ヲ映ヘテ單調増加連続函数  $\chi_1(x) = \max(x, \rho)$  ヲ考ヘル。  
 假定 = ヲツテ  $y_n^{(0)} \leq \rho$ ,  $z_n^{(0)} \leq \rho$  ( $n \neq n_k$ ) デアルカラ  
 $\chi_1(z_n^{(1)}) = \chi_1(z_n^{(0)})$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) デアル。ソレ故 =

$$\begin{aligned} \chi_1(\psi(z_n^{(0)})) &= \psi(\chi_1(z_n^{(0)})) = \psi(\chi_1(z_n^{(1)})) \\ &= \chi_1(\psi(z_n^{(1)})) \end{aligned}$$

ガ得ラレル。然ル =  $\psi(z_n^{(0)}) > \rho$  デアルカラ  $\chi_1(\psi(z_n^{(0)})) > \rho$   
 ガ成立シ従ツテ又  $\chi_1(\psi(z_n^{(0)})) > \rho$  デアル。ソレ故 =  $\psi(z_n^{(1)}) > \rho$   
 ガ成立スル。

次 = 單調増加連続函数  $\chi_2(x) = \min(x, \rho)$  ヲ考ヘル。

假定 = ヲツテ  $y_{n_k}^{(0)} \geq \rho$ ,  $z_{n_k}^{(1)} \geq \rho$  ( $k = 1, 2, \dots$ )  
 デアルカラ  $\chi_2(y_n^{(0)}) = \chi_2(z_n^{(0)})$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) デアル。  
 ソレ故 =

$$\begin{aligned} \chi_2(\psi(y_n^{(0)})) &= \psi(\chi_2(y_n^{(0)})) = \psi(\chi_2(z_n^{(1)})) \\ &= \chi_2(\psi(z_n^{(1)})) \end{aligned}$$

ガ成立スル。然ル =  $\psi(z_n^{(1)}) > \rho$  デアルカラ  $\chi_2(\psi(z_n^{(1)}))$   
 $= \chi_2(\rho)$  ガ得ラレ  $\chi_2(\psi(y_n^{(0)})) = \chi_2(\rho)$  デアル。之 =  
 依ツテ  $\psi(y_n^{(0)}) \geq \rho$  ナルコトガ知ラレル。然ル =  $\rho$  ハ  
 $\psi(y_n^{(0)}) \geq \rho$  ノ成立スル実数デ  $\psi(y_n^{(0)})$  ハコノ様ナ  $\rho$  ノ  
 上端トシテ定義サレルカラ  $\psi(y_n^{(0)}) \geq \psi(y_n^{(0)})$  デアル。故  
 = 任意ノ実数列  $\{y_n\}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) = 對シテ  $\psi(y_n) \geq \psi(y_n)$   
 デアル。

次 =  $\psi(y_n) \geq \psi(y_n)$  ヲ証明スル。実数列  $\{y_n^{(0)}\}$  ( $n = 1,$   
 $2, \dots$ ) = 對シテ  $\psi(y_n^{(0)}) = -\infty$  ノ特 = ハ  $\psi(y_n^{(0)}) \geq \psi(y_n^{(0)})$



成立スルコトハ明カデア。其処ヲ重( $y_n^{(0)}$ )  $> -\infty$ ノ場合ヲ考ヘル。重( $y_n^{(0)}$ )  $> \eta > -\infty$ ノ成立スル任意ノ実数 $\eta$ ニ對シテ無理数 $(n_1, n_2, \dots)$ ヲ選ンテ  $y_{n_k}^{(0)} > \eta$  ( $k=1, 2, \dots$ ),  $y_n^{(0)} \leq \eta$  ( $n \neq n_k$ )ノ成立スル $x$ ヲ出來ル。何ソトナレバ, 此ノ $x$ ヲ無理数ノ存在シナイトキニハ  $y_n^{(0)} \leq \eta$  ( $n=1, 2, \dots$ )デア。故ニ單調増加連続函数 $\chi(t)$ ヲ定義シテ  $t \leq \eta$ ノトキニ  $\chi(t) = t$ ,  $t > \eta$ ノ時ニ  $\chi(t) = 2t - \eta$ トスレバ,  $\chi(y_n^{(0)}) = y_n^{(0)}$ デア。カヲ重( $y_n^{(0)}$ )  $=$  重( $\chi(y_n^{(0)})$ )  $=$   $\chi$ (重( $y_n^{(0)}$ ))ノ成立スル。然ルニ重( $y_n^{(0)}$ )  $> \eta$ デア。カヲ  $\chi$ (重( $y_n^{(0)}$ ))  $=$   $2$ 重( $y_n^{(0)}$ )  $- \eta$ ノ得ラレ。重( $y_n^{(0)}$ )  $= \eta$ トナル。コレハ假定ト矛盾スル。ソレ故ニ要求ヲ滿タス無理数ノ存在スル。夫レ故ニ定義ニ依ツテ重( $y_n^{(0)}$ )  $\geq \eta$ デア。從ツテ重( $y_n^{(0)}$ )  $\geq$  重( $y_n^{(0)}$ )ノ得ラレ。當ニ重( $y_n$ )  $\geq$  重( $y_n$ )ノ成立スルコトガ判ル。

夫レ故ニ以上ノ結果ヲ綜合シテ重( $y_n$ )  $\equiv$  重( $y_n$ )ノ導カレ。コノ結果ニ依ツテ重( $y_n$ )ノ Hausdorff ノ算法デア。ルコトヲ証明スルニハ重( $y_n$ )ニ對シテ其ノコトヲ証明スレバヨイコトガ判ル。

其処ニ於テ對シテ実数ニ關スル算法重 $^*$ ( $y_n$ )ヲ定義シテ  $y_{n_k} > \eta$  ( $k=1, 2, \dots$ ),  $(n_1, n_2, \dots) \in \mathcal{N}$ ノ成立スル実数 $\eta$ ノ存在シナイトキニハ重 $^*$ ( $y_n$ )  $= -\infty$ , 然ラザル時ニハ

$$(2) \quad \text{重}^*(y_n) = \sup_{\mathcal{N}} \inf \{ y_{n_k} > \eta \text{ (} k=1, 2, \dots \text{), } (n_1, n_2, \dots) \in \mathcal{N} \}$$

トスル。然ルトキニハ  $\Psi(y_n) \equiv \Psi^*(y_n)$  デアル。定義ニ依ツテ  $\Psi^*(y_n) \geq \Psi(y_n)$  ナルコトハ明カデアアル。次ニ  $\Psi(y_n) \geq \Psi^*(y_n)$  テ証明スル。若シコレガ成立シナイトスレバ適當ナル実数列  $\{y_n^{(0)}\}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) ニ對シテ  $\Psi^*(y_n^{(0)}) > \Psi(y_n^{(0)})$  デアル。然ルトキニハ実数  $\epsilon$  ト無理数  $(n_1, n_2, \dots)$  トヲ選ンデ  $\Psi^*(y_n^{(0)}) > \epsilon > \Psi(y_n^{(0)})$ ,  $(n_1, n_2, \dots) \in \mathcal{N}$ ,  $y_{n_k}^{(0)} > \epsilon$  トナシ得ル。其他ニ  $y_{m_k}^{(0)} > \epsilon$  ( $k=1, 2, \dots$ )  $y_m^{(0)} \leq \epsilon$  ( $m \neq m_k$ ) ノ成立スル無理数  $(m_1, m_2, \dots)$  ヲ考ヘル。コノ無理数  $\mathcal{N}_k$  ( $k=1, 2, \dots$ ) ヲ含ンテシカ  $\mathcal{N} = \cup \mathcal{N}_k$  ナイコトハ定義ヨリ明ラカデアアル。今  $\{m_{\nu_k}\}$  ( $k=1, 2, \dots$ ) テ  $(n_1, n_2, \dots) = \cup \mathcal{N}_k$  ナイ  $m_k$  ヲ示ス。(コノ様ナ  $m_k$  ノ個數ニツイテハ有限個カ可附番個カ判ラナイガ存在スルコトハ確カデアアル) 其他ニ實数列  $\{x_n^{(p)}\}$  ( $n=1, 2, \dots$ ;  $p=0, 1, 2, \dots$ ) テ次ノ様ニ定義スル。即チ

$$x_{n_k}^{(p)} = 1, \quad x_{m_{\nu_k}}^{(p)} = \frac{p}{p+1} \quad (k, p=1, 2, \dots),$$

$$x_n^{(p)} = 0 \quad (n \neq m_k, p=0, 1, 2, \dots)$$

$$x_{m_k}^{(0)} = 1 \quad (k=1, 2, \dots)$$

然ルトキニハ空間  $\mathcal{R}$  ノ定義ニ依ツテ  $\{x_n^{(p)}\}$  ( $p=1, 2, \dots$ ) ハ  $\{x_n^{(0)}\}$  ニ收斂スル。ソレ故ニ又  $\Psi(x_n^{(p)})$  ( $p=1, 2, \dots$ ) ハ  $\Psi(x_n^{(0)})$  ニ收斂スル。然ルニ  $\{x_n^{(p)}\}$  ( $p=0, 1, 2, \dots$ ) ノ定義ニヨツテ  $\Psi(x_n^{(p)}) = \Psi(x_n^{(0)}) = 1$  ( $p=1, 2, \dots$ ) デ且ツ

$\Phi(x_n^{(0)}) = \Psi(x_n^{(0)}) = 0$  である。此ノ事實ハ前ノ結果ト矛盾スル、ソレ故ニ  $\Psi(y_n) \geq \Psi^*(y_n)$  が常ニ成立シ、従ツテ  $\Psi(y_n) = \Psi^*(y_n)$  である、然レニ  $\Psi^*(y_n)$  が底トスル Hausdorff ノ算法であるコトが証明サレル。今  $\Psi^{**}(y_n)$  が底トスル Hausdorff ノ算法トスル。然ルトキニ  $\epsilon$  ノ任意ノ無理数  $(n_1, n_2, \dots)$  に対シテ  $y_{n_k} \geq b_{i_c} \cdot y_{n_k}$  ( $k=1, 2, \dots$ ) であるカラ  $\Psi^*(y_n) \geq b_{i_c} \cdot y_{n_k}$  が成立シ、従ツテ  $\Psi^*(y_n) \geq \Psi^{**}(y_n)$  である。他方面ニテ  $\Psi^*(y_n) > \epsilon$  ノ成立スル任意ノ実数  $\epsilon$  に対シテ  $y_{n_k} > \epsilon$  ( $k=1, 2, \dots$ ) ノ成立スル無理数  $(n_1, n_2, \dots)$  が存在スル。ソレ故ニ  $\epsilon \leq b_{i_c} \cdot y_{n_k} \leq \Psi^{**}(y_n)$  が得ラレル。 $\Psi^*(y)$  ハコノ様ニ  $\epsilon$  ノ上端であるカラ  $\Psi^*(y_n) \leq \Psi^{**}(y_n)$  が成立シテ  $\Psi^*(y_n) = \Psi^{**}(y_n)$  ナルコトが判ル。故ニ  $\Psi^{**}(y_n) = \Psi^*(y_n) = \Psi(y_n) = \Phi(y_n)$  依ツテ  $\Phi(y_n)$  ハ Hausdorff ノ算法である。 — (証明了) —

次ニ一般ノ実数ニ関スル算法ノ構造ヲ考察シヨウ。  $\Phi(y_n)$  ヲ  $\mathcal{R}$  ノ部分集合  $D$  上ニ定義サレタ実数ニ関スル算法トスル。今  $\Phi(y_n)$  ヲ  $\mathcal{R}$  全体ニ拡張セテ  $\mathcal{R}-D$  ノ数列  $\{y_n\}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) に対シテ  $0$  に対応スル様ニスル。此ノ新シキ算法ヲ  $\Phi^*(y_n)$  示ス。

任意ノ自然数  $p$  に対シテ集合

$$E_n^{(p)} = E_{n_0} \{ \Phi^*(y_n) \geq \frac{n}{p} \} \quad (n=0, \pm 1, \pm 2, \dots)$$

$$E_{-\infty}^{(p)} = E_{n_0} \{ \Phi^*(y_n) = -\infty \}$$

此ノ様ニ  $\Phi^*(y_n)$  トスル時ニハ

$$\Phi^{(p)}(y_n) = \text{b. d.} \left\{ \frac{n}{p} \Phi_n^{(p)}(y_n), \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \Phi_{-\infty}^{(p)}(y_n) \right\}$$

= 對シテ  $\Phi^*(y_n) = \overline{\lim_{p \rightarrow \infty} \Phi^{(p)}(y_n)}$  が得ラレル。然ルニ

b. d.  $y_n, \overline{\lim_{n \rightarrow \infty} y_n}, \lim_{n \rightarrow \infty} y_n$  の operation topologique

ヲアルカラ、 $\Phi^*(y_n) \wedge \Phi_n^{(p)}(y_n)$  上 = operation

arithmétique ト operation topologique トヲ施

シテ得ラレル。故ニ  $\Phi^*(y_n)$  の構造ハ  $\Phi_n^{(p)}(y_n)$  の構造

ニ依ツテ知ラレル。然ルニ  $\Phi_n^{(p)}(x_n)$  ハ  $R$  の部分集合、特

性函数ヲアルカラ、我々、問題ハ  $R$  の部分集合、特性函数

ノ構造ヲ知ルコトニ帰着サレル。

先ツ  $R$  上ニアル矩形ノ特性函数ヲ考ヘル。此処ニ矩形ト

云フハ、ニツ、実数  $a_k, b_k$  ( $a_k \leq b_k$ ) ト自然数  $n_k$  トノ

組ノ有限列  $\{(a_k, b_k; n_k)\}$  ( $k=1, 2, \dots, \eta$ ) = 對シ

テ  $a_k \leq y_{n_k} \leq b_k$  ( $k=1, 2, \dots, \eta$ ) ヲ満足スル数列

$\{y_n\}$  ( $n=1, 2, \dots$ ) ノ集合、コトヲアル。  $\eta=1$  ノ場合

ニハ矩形ハ  $a_1 \leq y_n \leq b_1$  ヲ満足スル数列  $\{y_n\}$  ( $n=1, 2, \dots$ )

ノ集合ヲアルカラ、其ノ特性函数  $\Phi(y_n; a_1, b_1; n_1)$  ハ

$y_{n_1}$  上ニ operation arithmétique ト operation

topologique トヲ施シテ得ラレル。ソシテ一般ノ矩形ノ

特性函数ハ

$$\prod_{k=1}^{\eta} \Phi(y_n; a_k, b_k; n_k)$$

ヲ與ヘラレルカラ、矩形ノ特性函数ハ実数  $y_1, y_2, \dots$  =

operation arithmétique ト operation topologique

トヲ施シテ得ラレル。

次 =  $\mathcal{R}$ ノ任意ノ部分集合  $E$ ノ特性函数  $\chi(y_n)$ ヲ考ヘル。  $-1 \leq a_k \leq +1$  ( $k=1, 2, \dots, n$ )ヲ満足スル有理数  $a_k$  ( $k=1, 2, \dots, n$ ) = 對シテ  $|\nu(y_k) - a_k| \leq \frac{1}{n}$  ( $k=1, 2, \dots, n$ )ヲ満足スル矩形ヲ  $R(a_1, a_2, \dots, a_n)$ デ示ス。コレ等ノ矩形ノ集合ハ可附番デアルカラ、夫等ヲ列ニ置クコトが出来ル。ソノ一ツヲ  $\{R_n\}$  ( $n=1, 2, \dots$ )トスル。然ルニ  $\mathcal{R}$ ノ任意ノ一点  $p$  = 對シテ無理数  $(n_1, n_2, \dots)$ ヲ選ビテ  $(p) = \prod_{k=1}^{\infty} R_{n_k}$ ノ成立スル様ニナシ得ル。コレノ  $\times$   $\cup$   $+$  無理数ノ全体ノ集合ヲ  $\mathcal{R}_p$ トスル。然ルトキニハ  $\mathcal{R}$ ノ部分集合  $E$  = 對シテ

$$\mathcal{R}_E = \sum_{p \in E} \mathcal{R}_p$$

トスレバ、 $E = \sum_{\mathcal{R}_E} \prod_{k=1}^{\infty} R_{n_k}$ デアルカラ、 $R_n$ ノ特性函数

$\chi_n(y_n) =$  對シテ

$$\chi(y_n) = \text{b. l.} \left\{ \text{b. i.} \chi_{n_k}(y_n) \right\}$$

ガ成立スル。即チ  $\chi(y_n)$ ハ  $\chi_{n_k}(y_n)$ ノ上ニ *opération arithmétique* ト *opération topologique* トヲ施シテ得ラレル。ソレ故ニ以上ノ結果ヲ綜合シテ次ノ定理ヲ得ル。

定理 2.  $\chi(y_n)$ ヲ  $\mathcal{R}$ ノ部分集合  $D$ ニ定義サレタ実数ニ閉スル算法トスル時ニハ  $\mathcal{R}$ ニ定義サレタ実数ニ閉スル算法  $\chi^*(y_n)$ デ次ノ條件ヲ満足スルモノガ存在スル。

1°.  $D$ ノ凡テノ数列  $\{y_n\} (n=1, 2, \dots)$  = 對シテ  
 $\Phi(y_n) \equiv \Phi^+(y_n)$ ガ成立スル。

2°.  $\Phi^+(y_n)$ ハ実数  $y_n (n=1, 2, \dots)$  = opération  
arithmétique ト opération topologique トヲ施  
シテ得ラレル。

**3. 解析算法ノ構造** 前節ノ結果ニ依ツテ解析  
 算法ノ構造ヲ考ヘテ置カウ。先ヅ定義ヲ與ヘル。空間  $R$ ニ定  
 義サレタル解析算法  $\Phi(F_n(x))$ ノ中テ次ノ  $\Phi$ ヲ opération  
 arithmétique ト云フ。

1°.  $A(x) + F(x),$

2°.  $A(x) \times F(x),$

3°.  $F_1(x) + F_2(x),$

4°.  $F_1(x) - F_2(x),$

5°.  $F_1(x) \times F_2(x),$

6°.  $F_1(x) \div F_2(x),$

(但シ、 $A(x)$ ハ  $R$ ニ定義サレタル一定ノ函数ヲ示ス)

又  $R$ ニ定義サレタル解析算法ヲ凡テノ局所算法ガ topo-  
 logique +  $\Phi \in \Phi$ ヲ opération topologique ト云フ。  
 然ルトキニ次ノ結果ガ得ラレル。

**定理 3.** 空間  $R$ ニ定義サレタル解析算法  $\Phi(F_n(x))$   
ハ  $F_n(x) (n=1, 2, \dots)$  = opération arithmétique  
ト opération topologique トヲ施シテ得ラレル。

追記 実数ニ関スル算法  $\Phi(y_n)$ ガ條件

1°.  $\Phi(y_n)$ ハ  $R$ ニ連続ナル。

2°.  $\chi(t)$ ヲ  $-\infty \leq t \leq +\infty$ ニ單調増加連続ナル函数ト

スルトキニ  $\chi(\Phi(y_n)) = \Phi(\chi(y_n))$ ナル。

ヲ満足スルトキ = *topologique* デアルト定義シタガ此処  
 デ 1° ノ オハ 2° ノ オカラ導クコトが出来ル。

定理 1 ノ 証明デ *opération topologique*  $\Psi(y_n)$   
 ガ Hausdorff ノ 算法デアルコトヲ示シタガ、ソノ中デ  
 $\Psi(y_n)$  ガ  $\mathcal{R}$  デ連続デアルコトヲ使ツタノハ  $\Psi(y_n) \equiv \Psi^*(y_n)$   
 ノ 証明ノ 所デアツタ、(記号ハ 定理 1, 証明中,  $\in$  / = 依ル)  
 併シナガラ、コノ 部分ノ 証明ニ 2° ノ ミヲ出来ル。之レヲ 証  
 明スルニ  $\wedge (n_1, n_2, \dots) \in \mathcal{N}$  ノ とき  $n_k (k=1, 2, \dots)$   
 ヲ 含ム 任意ノ 無理数  $(m_1, m_2, \dots)$  (此ノ 意味ハ  $n_k = m_{\nu_k}$   
 $(k=1, 2, \dots)$  ) 成立スル  $\nu_k (k=1, 2, \dots)$  ノ 存  
 在スレコトデアル) ガ  $\mathcal{N}$  = 含マレルコトヲ示セバ十分デア  
 ル。今 實数列  $\{y_n^{(0)}\} (n=1, 2, \dots)$  ヲ 選ンデ 次ノ 様ニ  
 スル。

$$m_{\nu_k} = 1 \quad (k=1, 2, \dots)$$

$$m_j = \frac{1}{2} \quad (j \neq \nu_k, k=1, 2, \dots)$$

$$n = 0 \quad (n \neq m_k, k=1, 2, \dots)$$

然ル とき  $\wedge (n_1, n_2, \dots) \in \mathcal{N}$  カラ  $\Psi(y_n^{(0)}) = 1$  デ  
 アル。今 單調増加連続函数ヲ 定義シテ  $t \geq \frac{1}{2}$  ノ とき =  
 $\chi(t) = 1$ ,  $\chi(0) = 0$  ト スレバ  $\Psi(\chi(y_n^{(0)})) = \chi(\Psi(y_n^{(0)}))$   
 $= 1$  デアル。然ルニ  $\Psi(y_n) \equiv \Psi(y_n)$  デアルカラ  $\Psi(\chi(y_n^{(0)})) = 1$   
 ガ 成立シ、且ツ

$$\chi(y_{m_k}^{(0)}) = 1 \quad (k=1, 2, \dots)$$

$$\chi(y_n^{(0)}) = 0 \quad (n \neq m_k)$$

デアルカラ、 $\mathcal{N}$  ノ 定義ニ ヨツテ  $(m_1, m_2, \dots) \in \mathcal{N}$  デアル。